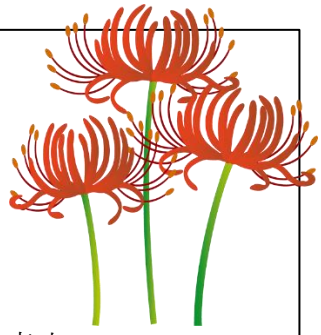
長崎市立滑石小学校　校長室だより　Ｎｏ６６

今日の一言



５．１０．５　校長　渕上　卓也

高二の夏でした

先週金曜日に、４年１組にお呼ばれして、社会科の発表を聞かせてもらいました。内容は「長崎大水害」についてです。保護者の皆様は、生まれる前とか記憶にない世代ですよね。

当時、私は長崎北陽台高校に通う高校２年生でした。土砂降りの雨の中、小峰町の自宅まで帰宅。途中道路は冠水しており、浦上川が今にも溢れそうになっていた光景が、目に焼き付いています。もう少し遅かったら、自宅に戻れなかったかもしれません。ラジオからは一晩中避難者の名前が流れていました。

子どもたちにとっては生まれるずっと前の話ですが、インターネットや本で調べたり、いろいろな人にインタビューをしたりして詳しくまとめ、プレゼンテーションソフトを使って分かりやすく伝え合っていました。

滑石地区でも道路の冠水や土砂崩れ等が発生し、住民生活にも大きな影響が出ていましたからね。しばらく道路が通行止めになっていた記憶があります。子どもたちの発表によれば、滑石小学校の体育館にも１００名を超える方が避難していたそうです。

過去の出来事かもしれませんが、地球温暖化が進む中、あの時以上の災害に見舞われるかもしれないという心構えは必要です。発表の中で、一人の子が私の思いを代弁してくれました。「いつか起こるかもしれない災害に備え、自分の命は自分で守るつもりで、避難訓練や集団下校の時には真剣な態度で取り組んでほしい。」それが私の一番の思いです。

子どもたちの発表を聞かせてもらいながら、私自身「長崎大水害」のことを思い起こし、大切なお子様を預かっている学校として、命を守るための指導も備えも充実させていかなければならないと改めて考えた次第です。

よい勉強の機会をくれた４年１組のみなさん、ありがとうございました。

＜今日の一句＞
訓練が
何のためかを
忘れずに　　卓也